小平こども園　絵本だより

えほんのひろば

No. 4

令和元年
7月16日(火)
平田村立小平こども園

くり返しの読み聞かせが愛着関係を深めます

唐突ですが、「愛着」という言葉の意味ってご存知ですか？

「愛着」とは「慣れ親しんだ物事に深く心を引かれ、離れがたく感じる」ことを言うそうです。この「愛着」という言葉…。愛着の形成は、子どもが親や自分の周りにいる大人に対しての信頼関係を育み、その後の心の発達、社会へ出てからの人間関係を大きく左右する（影響する）とも言われています。人との絆を深め社会性を持った人間関係を構築すること。これって人間の基本的な生活の営みかもしれないですね。

では、愛着を育むにはどうすればいいのでしょう。「福島こどものとも社」オーナーの上野良一様の言葉です。「信頼し安心できる大好きな人がそばにいる時、多くを学ぶのが子どもです。記憶に残る絵本は子どもとの一生の思いで、愛着という絆の証，もはや体の一部です！」と…。くり返し何度も読む価値のある本を選ぶことが大切で、それは大人になってもなくならない本、例えば「ぐりとぐら」「おおきなかぶ」「はらぺこあおむし」など、未だに読み継がれている絵本を読むことだそうです。「お子さんが今読んでいる絵本に大人になってから再び会える日がくる。その時、思い出すのは、読んでくれた人達の温もりと優しさに満ちた言葉。」（上野良一氏）



良質な絵本との出会いと子どもの愛着を形成できるのは、私達保育者やお家の皆さんに他ならないのかもしれないと思うと、私たち大人の存在がいかに重要かを考えなくてはならないですね！

第2回絵本サロンを開催！

本年度第２回目となる絵本サロンが去る６月２８日（金）に開催されました！今回は、平田村社会福祉協議会の「元気クラブ」の皆様（16 名）がわざわざご来園くださり、子ども達と手遊びをしたり昔話の絵本を楽しんだりと、温かい雰囲気のもとで時間を過ごしました！核家族の多い現代、子ども達もおじいちゃんやおばあちゃんとのふれあいをとても喜び、一緒に絵本の世界を楽しむことができました！次回の絵本サロンへもご参加いただけたらと思っています。

今回の担当は、佐藤和代先生と星知子先生です。









身を乗り出して見入ってます！











裏面へつづく

新しい絵本を購入しました！

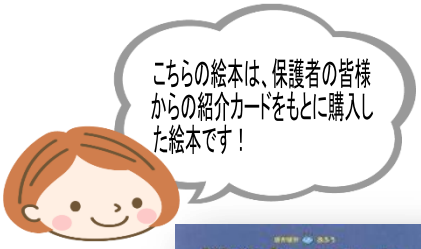
昨年度、保護者の皆様からたくさんの絵本のご紹介をいただきました「絵本紹介カード」ですが、本年度の絵本を購入する際に参考にさせていただき、何冊か購入いたしました。

ご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。本年度も紹介カードは継続しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の購入では、その他にもたくさんの絵本を購入いたしました！お子さんが週末に楽しみに選んだ絵本を持ち帰りますので、ぜひとも「うちどく」を楽しんでくださいね！

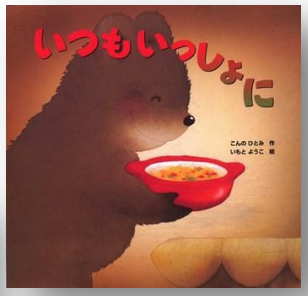
☆「うちどく」に関する情報はこちらまで！☆

うちどく.com





「どうぶつえんのおふろやさん」
作　とよたかずひこ
ひさかたチャイルド　出版



「いつもいっしょに」
作　こんのひとみ
金の星社　出版



「かぜのでんわ」
作　いもとようこ
金の星社　出版



「こんがらがっち　どっちにすすむ？の本」
作　ユーフラテス
小学館　出版

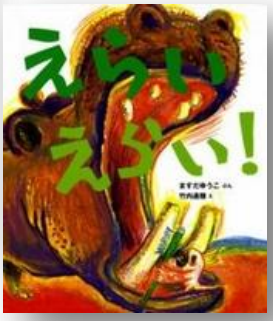




「しょうがっこうがだいすき」
作　うい
学研プラス　出版



「いろいろバス」
作ツペラツペラ
大日本図書　出版



「えらいえらい！」
作　ますだゆうこ
そうえん社　出版

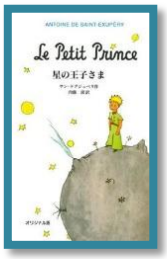


「もうぬげない」
作　ヨシタケシンスケ
ブロンズ新社　出版

今月のちょっといいコトバ



「こどもたちだけが、自分が何を探しているのか
知っているんだね」
サン＝テグジュペリ＊内藤　濯　訳



鉄道のポイントを守る係（転轍手）から話を聞いて王子様が出した結論なのでしょう。「こどもたちは、誰に何をいわれても自分の行き着きたいところは知っているのだ。」という王子様なり解釈ですが、本当にそうですよね！子どもは本当にほしいものを純粋にひたすら追いかけますよね。大人は「そっちはダメ！」とつい自分の価値観を押し付けがち…。子ども達が追い求める先は決して大人と同じではないんでしょうね。子どもだって人間です。彼らを尊重しましょう！！